

農作物の生育状況と今後の見通し

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策	
作物	水稲	<ul style="list-style-type: none"> 全般的に生育は順調で、一部でイナゴ類による葉の食害がみられる他は、目立った病害虫の発生はない。 茎数は、5月上旬植えはやや少なく、5月下旬植えは平年並～やや多い傾向。草丈は平年並～やや短め、葉色は5月上旬植えではやや濃く、5月下旬植えではやや淡く推移。 6月上旬までの降水量が少なく、一部で用水不足が懸念されていたが、6/11～14の降雨により、用水不足の懸念は解消された。 移植後の気温が高く推移したため、除草剤散布が遅れたほ場等で、雑草の発生が多いほ場が散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> 茎数増加を促すため、昼間の止水浅水管理を徹底する。 目標茎数確保後は、品種特性に応じた中干しを行う。 雑草繁茂ほ場では、中後期除草剤などにより、雑草防除に努める。
	麦	<ul style="list-style-type: none"> 二条大麦の収穫は終了し、収量は平年並～やや少ない傾向。 小麦の収穫は6月2日から始まり16日までに終了。平年並の収量が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小麦については今期の収穫は終了。今後の品質調査結果を受けて、次年度に向けて適正品種の探索、低アミロ対応調節剤の検討が課題となる。
果樹	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> 6月13日作況調査の結果、横径33.2mmで前年比95%、平年比94%で平年より4～5日程度遅い生育となっている。 「新甘泉」等で黒星病の発生が報告されている。 「二十世紀」では大袋かけ作業中。 	<ul style="list-style-type: none"> 降雨が続くようになれば、排水対策を徹底する。 病害虫(カメムシ、ハダニ、サビダニ、黒星病)の多発生に注意を行い、防除管理の徹底を行う。 近年「新甘泉」の輪紋病が問題となっている地域もある。大袋かけ前に輪紋病対策防除を行い、早めに大袋かけを済ませる。
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> カキの開花盛は、「富有」が5月28日、「輝太郎」が同25日、「西条」が同28日で、平年より1～2日遅い開花となった。 生理落果が発生し始めたが、着蕾も良好で各品種ともに着果数は確保できる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> 降雨が続くようになれば、排水対策を徹底する。 着蕾は良好であるので、摘果作業は計画的に実施する。 例年カメムシの発生が見られ始める時期であるため注意する。
	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> 無加温ハウスの「デラウェア」は着色期に入っている。 巨峰・ピオーネは前年に比べ1～4日程度遅い生育となっている。 病害虫は、コガネムシの発生(飛来)が見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高湿度で病害が助長される時期であり、ハウスの換気と適期防除に努める。
野菜	すいか	<ul style="list-style-type: none"> 【ハウス栽培】 6月16日現在で、累計出荷4,057tで昨年比109%。3L規格中心だが、昨年よりやや小玉傾向。 6月13日出荷分から秀率が低下しており、4月24日～30日の低温、日照不足の交配による奇形果の発生要因とみられる。 【トンネル栽培】 6月17日頃から本格的な出荷となっている。 一部で6月13日～14日の大雨の影響とみられる裂果が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨期に入り、病害が発生しやすいため、つる枯病、炭疽病などの防除を徹底する。 天候の状況に応じて、草勢維持のためかん水を行う。 高温期のトンネル栽培は出荷前はトンネル被覆のクレフノン塗布などにより直射日光を抑え、草勢の維持と果実品質の低下防止を図る。
	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 5月下旬から定植が始まっている。定植後、乾燥傾向であったため、かん水施設がない圃場では初期生育がやや遅れている。 【夏ねぎ】 トンネル栽培～無トンネル栽培の6月どり作型が収穫中。抽苔は平年よりやや多い傾向だが、概ね順調に生育している。 3月下旬～4月上旬定植の作型は乾燥の影響で1週間程度生育が遅れていたが、降雨以降回復傾向。 【秋冬ねぎ】 定植後の乾燥で、生育が1週間程度遅れ気味。一部の圃場では生育が停滞していたが、全体的に生育は順調。 ネギアザミウマ、ハモグリバエの発生が目立っており、さび病も発生が継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨期の豪雨、長雨に備え、明渠、排水路を整備し、排水対策を徹底する。 ネギアザミウマの多発ほ場では、卓効剤を優先的に使用して防除を徹底し、密度を低減させる。 発生が見られない地域においても今後、べと病、ネギアザミウマの増加が予想されるため、防除を徹底する。
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 初夏どりブロッコリーの収穫は8割程度終了し、例年より早い進捗となっている。 6月13日14日の大雨後に小花黄化が発生し品質低下が目立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫は6月25日頃まで続く見込み。
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> 【福部地区】 6月15日現在で、市場出荷量は洗い775t(昨年比124%)、根付き460t(昨年比117%)、合計1,235t(昨年比121%)で昨年より多い。収量が多かったが切り子が確保でき順調に出荷できた(新型コロナウイルスの影響)。 販売単価は昨年比で洗い87%、根付き95%で、市場販売額は7億1,170万円(昨年比110%)。 JA出荷は、洗いらっきょう6月13日で出荷終了、根付きらっきょう9月19日出荷まで。 【北栄地区】 JA出荷は6月15日で終了。市場出荷量は洗い198t(昨年比97%)、根付き732t(昨年比97%)で前年並み。 販売単価は昨年比で洗い88%、根付き95%で、市場販売額は3億9,659万円(昨年比92%)。 【県全域】 市場出荷量2,181t(昨年比109%)で出荷量は前年より多かったが、洗いらっきょうの販売単価が低減し、市場販売額12億4,740万円(前年比100%)で前年並み。 	<ul style="list-style-type: none"> 種ほ場は乾腐病が蔓延しないよう早めに掘り上げ、冷蔵庫等で保管する。
	トマト	<ul style="list-style-type: none"> 【促成トマト(倉吉市大原地区)】 現在5段目収穫中で終盤となっている。6月15日現在、出荷量合計21,742ケース、前年同期比90.1%でやや少ない。 つやなし果、ゴーストスポットなどが発生し、加工用トマトへの出荷比率が高まっている。 【夏秋トマト(日南町)】 6月5日で定植終了。最も早い5月15日定植で3段目が開花中で、例年よりやや早い。 6月13、14日の大雨後に疫病の発生したほ場が見られたが、ごく一部にとどまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 促成トマト(倉吉市大原地区)の出荷は6月末までの予定。 夏秋トマト(日南町)の出荷は7月上旬からの見込み。草勢が落ちないように早めの追肥を心がける。
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> 立茎期のため、現在の出荷量は少ない。 出荷開始から6月12日までの販売状況(JAいなば全体、累計)は、数量90,376束(R元年対比98%)、販売金額13,011千円(96%)、単価144円/束(97%)で前年並み。 	<ul style="list-style-type: none"> 茎枯病発生後の防除は困難なため、予防散布を徹底する。 立茎が完成し、スリップスの増加が予想されるため、初期防除を徹底する。 	
にんじん(春どり)	<ul style="list-style-type: none"> 6月10日から収穫、出荷が始まり、やや小ぶりでM規格中心となってる。 6月13、14日の大雨後に一部で根部障害が発生しており、調査中。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月末で収穫終了の見込み。 収穫遅れで過肥大にならないよう計画的に作業する。 	
花き	シンデッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> 【露地作型(季咲き)】 【八頭町】 F1オーガスタの苗が全体的に小さめであったため、昨年より3日～1週間程度長めに不織布で被覆する生産者が多かった。 生育の早いほ場で5月下旬ごろから抽苔を開始し、草丈15cm程度となっているが、生産者によるばらつきが大きく、全体的に例年より遅れている。 【鳥取市】 6月上旬より抽苔開始。昨年並みの生育。葉枯れ病などの病害発生は今のところ見られない。 【倉吉市】 定植がGW明けのため、まだ抽苔していないものから草丈30cmほどのものまで様々。ばらつきが大きい。晩生品種は未抽苔。 【北栄町】 6月上旬から抽苔が始まった。 【露地抑制(彼岸出荷)】 智頭町で2戸、八頭町で1戸、倉吉市で1戸が取り組み。いずれも6月上旬から中旬に定植が終了した。智頭町ではハウスで栽培する生産者もある。北栄町では6月10日にチェーンポット苗を定植している。 【ハウス抑制作型】 現在育苗中。北栄町、倉吉市とも概ね2～3葉となり、平年並に生育している。中国産種子は干葉産種子よりも根量が少なく、葉色もやや薄め。北栄町の生産者は早い人で6月15日から苗冷蔵を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> 葉枯病の防除を徹底するとともに、大雨や長雨に備えて排水口の点検等排水対策を実施する。 ハウス抑制作型では、6月19日に冷蔵庫に入庫し、7月2日に定植予定(北栄町)。定植準備が間に合うよう準備する。
	リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> 【八頭町】 5月下旬頃～6月上旬の梅雨入りまでの強風、少雨、日中の高温、強日射により生育が停滞し、昨年同様、開花が遅れ気味となっている。 5月13日～14日の大雨と高温により、根傷みが原因と思われる茎葉のしおれが発生し、品質が低下すると思われる。かなり広範囲に発生している。翌日にはやや回復したほ場がある一方で、しおれが戻らないほ場もある。 【三朝町】 生育は概ね順調。現在の草丈は70～110cm。盆前のお荷をめぐって栽培管理を行っている。これまで、2回の整枝を行い、ほぼ目標とする草姿に仕上がった。一部に欠株もみられたが、新たな種苗の補植を行い、活着を確認している。 ほ場の一面に園試育成の極早生系統も試験的に植栽されており、その系統は7月上旬から収穫できる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> スリップス、褐斑病の発生が予想されることから定期防除を徹底する。 梅雨期の大雨に備えて排水対策を徹底する。 しおれによる品質の低下と出荷量の減少が懸念される。
	トルコギキョウ	<ul style="list-style-type: none"> 【季咲作型】 八頭町では3戸が3月に播種。4月下旬～5月中旬定植。高温、強日射対策で、2戸がハウスにシルバー寒冷紗を被覆した。草丈は20cm程度で、順調に生育している。 鳥取市では育苗管理が不十分で苗が小さく、定植したが生育は不良。 	<ul style="list-style-type: none"> スリップス、チョウ目害虫の発生が予測されるため、防除を徹底する。
	キク	<ul style="list-style-type: none"> 【露地コギク】 倉吉市では5月上旬から順次定植。生育は順調。八頭町でも生育は順調で特に問題は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期防除と排水対策を徹底する。特にキク類は滞水に弱いので、速やかに排水できるよう排水路を整備する。
畜産	飼料用トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥取八頭地区】 6月上旬に播種終了。 新たに作付開始の耕種農家では堆肥未投入、株間が短いこと等により他と比較して草丈が低い(七割程度)。 5月下旬～6月上旬に一部ほ場でネキリムシによる食害が見られた。 【倉吉地区】 6月9日播種終了し生育順調。 栽培面積は9戸の酪農家で81.7ha(前年84.8ha)。 【東伯地区】 播種は概ね終了し、生育も順調。 5月末以降に播種されたほ場で雑草防除実施中。 【大山地区】 順調に生育中。 	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥取八頭地区】 ネキリムシについては薬剤散布による防除を生産者に助言。現在はトウモロコシの生育が旺盛で食害は目立たなくなった。生育初期のほ場については引き続き生産者への注意喚起を実施。
	イタリアンライグラス等	<ul style="list-style-type: none"> ○イタリアンライグラス 【東伯地区】 2番草の収穫(ほぼ)終了。 【大山地区】 2番草収穫中。 1番草の収量は平年並。 【西部地区】 2番草の生育順調。 ○他牧草 【鳥取八頭地区】 湖山池周辺牧草は6月上旬に瀬地区の2番草を収穫開始。 【東伯地区】 夏牧草の播種作業は終盤。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イタリアンライグラス 【西部地区】 6月下旬に2番草の収穫開始見込み。 ○他牧草 【鳥取八頭地区】 湖山池周辺牧草は6月中旬から西桂見地区の2番草を収穫開始見込み。三津地区の2番草は7月上旬収穫見込み。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 6月11日広島気象台発表の中国地方の1ヶ月予報では、寒気の影響を受けて1週目は気温が高く、2週目の気温は低く、向こう1か月を平均した気温は平年並みか高いと予想されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【予防方法】 できるだけ気温の高い時間帯を避けて作業する。 休憩をこまめにとり、作業時間を短くする。特に気温が高くなりやすいハウス内での作業は注意する。 作業するハウスは、できるだけ換気に努める。 日射を防ぐ服装をする。通気性の良い素材の長袖シャツと長ズボンを着用し、つばの広い帽子などを被る。 気温・湿度が高い中でマスクを着用すると熱中症のリスクが高まるため、屋外での農作業などにおいて人と十分な距離(2m以上)が確保できる場合には、マスクを外して行う。 マスクを着用している場合には強い負荷の作業は避ける。 農作業の際には水、氷(保冷剤)、濡れタオル等を持参し、汗で失われた水分を十分に補給するため水分をこまめに摂取する。また、汗を大量にかいた際には塩分の補給もあわせて行う。 	